

「2022年度 第3四半期決算概要」

- 1. 2022年度Q3連結業績概要**
- 2. 2022年度業績見通し**
- 3. 中期経営計画見通し**

第3四半期 業績概要

- 緩やかな生産回復と為替(円安)を主因として、**過去最高の四半期売上**を達成。
インフレ影響はあるも増収効果で**営業利益率は約12%まで改善**

業績見通し

- 為替の前提は見直すも、**通期の見込みについては変更なし**
(米ドル: 131円/ドル、ユーロ: 138円/ユーロ)

中期経営計画

- FY2024中期経営目標を堅持

1. 2022年度Q3連結業績概要

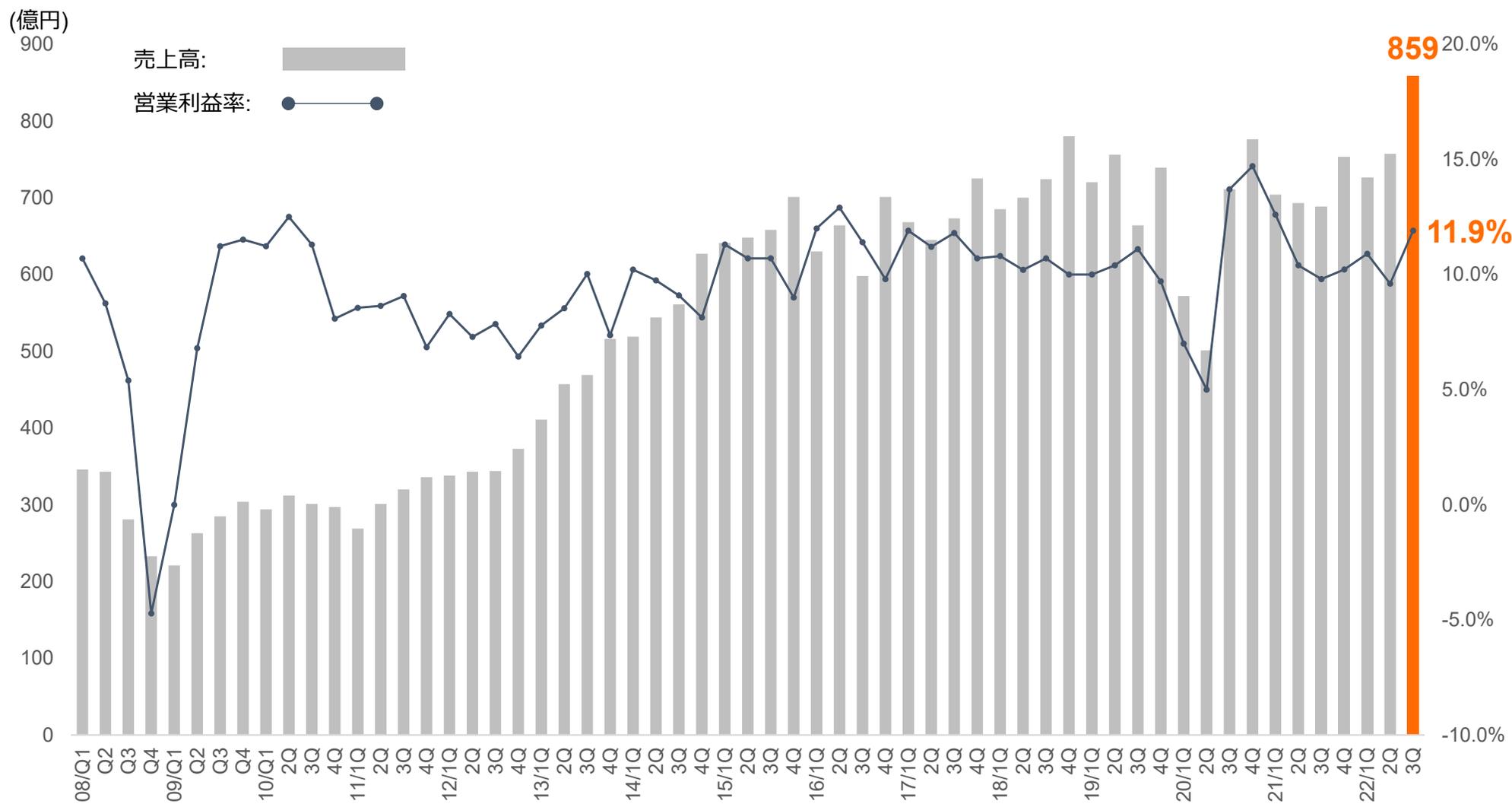
2. 2022年度業績見通し

3. 中期経営計画見通し

1. 決算ハイライト

売上高・営業利益率 推移

• 生産回復と円安で四半期売上高は過去最高。営業利益率も約12%まで改善



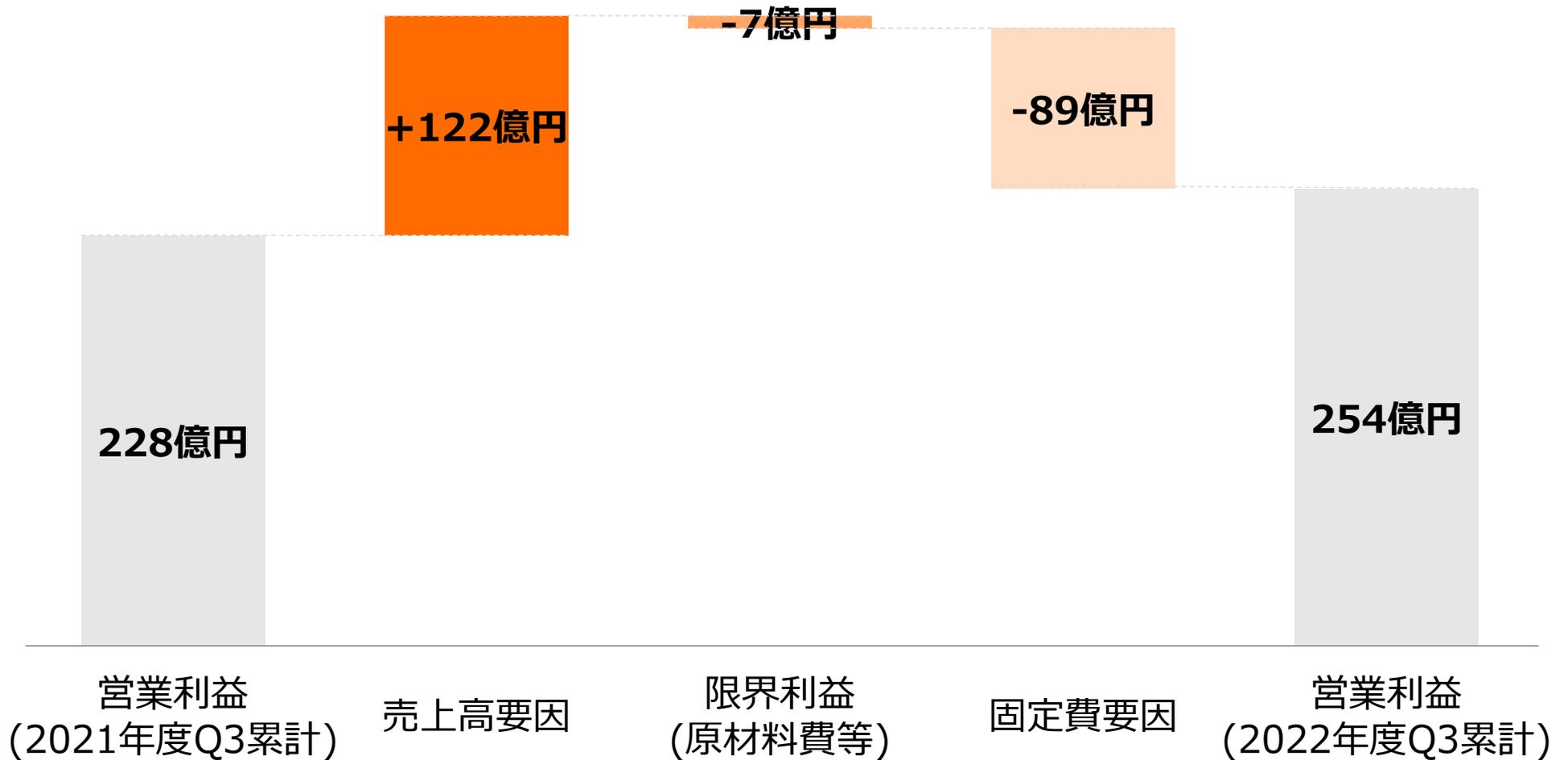
過去1年で売上・営業利益・営業利益率とも最高水準

- 中国ロックダウン解除、円安が主因となり前四半期比で増収・営業利益増
- 当期純利益は為替差益・支払税金の変動で前四半期比で減少

	2021年度		2022年度		前年同期比
	3Q	1Q	2Q	3Q	
売上高	688億円	726億円	757億円	859億円	+24.9%
営業利益	68億円	79億円	73億円	103億円	+51.5%
営業利益率	9.8%	10.9%	9.6%	11.9%	+2.1%pts
当期純利益 ¹⁾	47億円	80億円	58億円	47億円	+0.4%
一株当たり 四半期純利益	46.38円	80.22円	57.90円	46.77円	+0.8%
想定為替	1ドル=108.5円 1ㄱ-□=129.8円	1ドル=116.3円 1ㄱ-□=130.4円	1ドル=123.1円 1ㄱ-□=134.4円	1ドル=128.3円 1ㄱ-□=136.1円	1ドル=+19.8円 1ㄱ-□=+6.3円

営業利益増減分析（前年同期比較）

- 海外の賃金上昇等で固定費は増加したが、円安・生産回復に伴う増収で増益



全地域・セグメントで前年同期比増収

- 緩やかな生産回復、円安を主因として全地域・セグメントで前年同期比増収
- 欧州は為替効果あるも、生産回復が遅れているため増収幅が限定的

	2021年度 (Q3累計)	2022年度 (Q3累計)	前年同期比	主な変動要因
連結	2,084億円	2,342億円	+12.3%	
合成樹脂	1,872億円	2,105億円	+12.4%	
日本	537億円	566億円	+5.4%	緩やかな生産回復
北米	439億円	526億円	+20.0%	為替(円安)
欧州	267億円	272億円	+1.9%	生産回復の遅れ、為替(円安)
アジア	630億円	741億円	+17.6%	為替(円安)
中国	218億円	246億円	+12.8%	為替(円安)
バッド	212億円	237億円	+11.8%	東南アジアが好調

欧州を除く全地域・セグメントで増益を達成

- 合成樹脂事業は、需要が堅調なアジア、一時コストが剥落した北米で増益が顕著
- 欧州は光熱費等コスト増により前年同期比で減益

	2021年度 (Q3累計)	2022年度 (Q3累計)	前年同期比	主な変動要因
連結	228億円 (11.0%)	254億円 (10.8%)	+10.9%	
合成樹脂	227億円 (12.1%)	252億円 (11.9%)	+11.1%	
日本	89億円 (16.6%)	94億円 (16.6%)	+5.1%	緩やかな生産回復に伴う増収
北米	10億円 (2.3%)	16億円 (3.0%)	+56.3%	円安、緊急輸送便等一時コストの剥落
欧州	15億円 (5.8%)	6億円 (2.3%)	-59.6%	生産回復の遅れ、光熱費等コスト増
アジア	112億円 (17.7%)	136億円 (18.3%)	+21.4%	円安、増収によるコスト増跳ね返し
中国	34億円 (15.5%)	43億円 (17.4%)	+26.6%	円安、増収によるコスト増跳ね返し
ベッド	39億円 (18.5%)	41億円 (17.2%)	+3.9%	円安、増収

6. 設備投資と減価償却費

設備投資は計画比で抑制するが、研究開発は計画を上回る水準で支出

- 欧米地域が不振の為、営業CFは計画に対して進捗に遅れ
- キャッシュフローを重視した経営を継続

	2021年度(Q3累計)	2022年度(Q3累計)	増減	2022年度通期計画
設備投資額	56億円	63億円	+7億円	131億円
減価償却費	94億円	101億円	+7億円	130億円
研究開発費	20億円	28億円	+8億円	28億円
営業CF	208億円	228億円	+20億円	384億円
投資CF	-63億円	-108億円	-45億円	-131億円
フリーCF	145億円	120億円	-25億円	253億円
財務CF	-125億円	-103億円	+22億円	-147億円
現預金残高	1,006億円	1,168億円	+162億円	1,199億円

1. 2022年度Q3連結業績概要
- 2. 2022年度業績見通し**
3. 中期経営計画見通し

為替前提は据え置き or 為替前提を見直し

- 為替動向を踏まえて、為替の想定を見直し(131円/ドル、138円/ユーロ)
- 生産回復動向や価格適正化の進捗等も踏まえた見立て

		前回(10月)		今回		
		対象期間	想定	対象期間	想定	
国内	需要	2022/10 ~2023/3		2023/1 ~2023/3		• 自動車生産は徐々に回復
	供給					• インフレ継続と見立て
海外	需要	2022/7 ~2022/12		2022/10 ~2022/12		• 中国ゼロコロナ政策の影響注視
	供給					• インフレ継続と見立て
為替			128円/ドル 136円/ユーロ		131円/ドル 138円/ユーロ	• +3円/ドル • +2円/ドル

通期見通しについては、変更なし

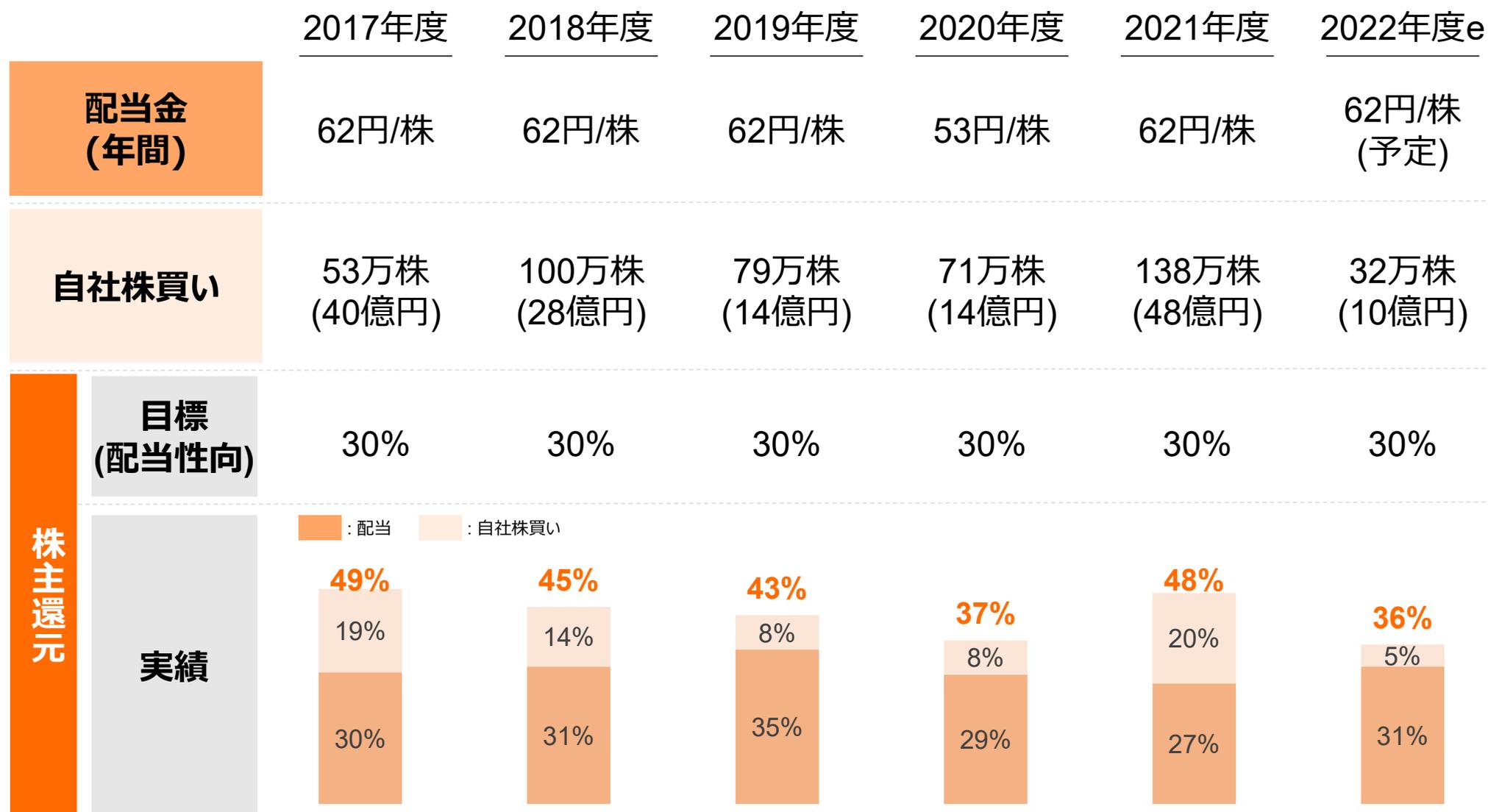
- 通期の見込みについては変更なし
- アジア・日本の樹脂事業の営業利益は順調に進捗。一部生産混乱で進捗に遅れがある北米はてこ入れで落ち着きの兆し。様々なリスクのある欧州セグメントの営業利益進捗が依然弱い

	2022年度(Q3累計)		2022年度(通期計画)		達成率	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結	2,342億円	254億円	3,050億円	315億円	76.8%	80.6%
合成樹脂	2,105億円	251億円	2,720億円	310億円	77.4%	81.1%
日本	566億円	94億円	800億円	115億円	70.7%	81.6%
北米	526億円	16億円	650億円	30億円	81.0%	52.9%
欧州	272億円	6億円	370億円	20億円	73.5%	31.2%
アジア	741億円	136億円	900億円	145億円	82.3%	93.5%
中国	246億円	43億円	310億円	45億円	79.4%	95.0%
ベッド	237億円	41億円	330億円	60億円	71.8%	67.8%

9. 株主還元

10億円(32万株)を上限として自社株買い実施を決定

- 配当性向30%をコミットメントとし、安定配当を実施
- 10億円(32万株)の自社株買い実施を決定



※当社は2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2017年の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「配当金」を記載しております。

1. 2022年度Q3連結業績概要
2. 2022年度業績見通し
- 3. 中期経営計画見通し**

自動車生産動向の変動はあるも需要は堅調。従来の中計目標を堅持

- 自動車部品はFY2023販売車種への営業活動は想定通りの進捗
- ベッド事業は中国・東南アジアで高品質マットレスに対して力強い需要

FY2023以降の見立て

中計目標(FY2024)

自動車



自動車生産の正常化



軽量化、安全系の樹脂製への需要は引き続き増加



コロナ等起因のサプライチェーン問題

ベッド



中国・東南アジアでの堅調な需要増加



高品質マットレスへの需要増



中国のコロナ政策変更影響

売上

3,300億円

営業利益

380億円

営業利益率

11.5%

当期純利益

265億円



本資料に記載されている情報には将来の見通しに関するものが含まれています。これらには現在入手可能な情報をもとにした判断が含まれており、リスクや不確実性が含まれています。今後の経済状況、事業環境の変化などにより将来の見通しが大きく変わる可能性があるため、将来の見通しに関する情報が正確であること、または記載した情報どおりになる事を当社が保障するものではありません。また、これらの情報は投資家の方々へ当社の状況や今後の考え方を伝えることを目的としており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。